



〈代表取締役社長〉

黒木 周二
くろぎ しゅうじ

【座右の銘】

無心、無我夢中

Q1

独自の燃焼技術とは？

A 傾斜した炉床が回転することで燃焼を均一に行った燃焼速度を制御でき、ボイラ出力の安定化が図れます。

Q2

どんな市場での販売が期待できるのですか？

A 脱化石燃料化を模索している工業系工場や、全国のスーパー銭湯などをはじめとする温泉施設、高齢者施設などの市場を見込んでいます。

Q3

今後の展望は？

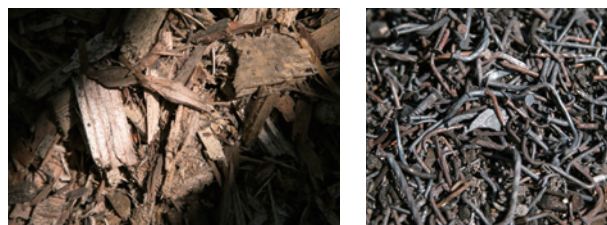
A 今後、見本市や展示会への出展も考えています。また、現在は温水ボイラですが、今後蒸気ボイラの開発を目指します。

既

存のバイオマスボイラは、燃焼と出力を安定化させるために、例えば同じ木質であっても、「ペレット」と「チップ」を燃料として併用することができません。したがって、ボイラの種類によって使用できる燃料が限定される上、異物などが混入していない比較的良好な燃料への偏重が発生しています。

今回開発した小型バイオマスボイラなら、木質チップとタイヤチップの混合燃焼も可能で、釘などが混ざった廃材も燃焼可能なことが実証されています。

2年後には工場系ボイラ市場と温泉施設温水ボイラ市場へ進出し、当社のバイオマスボイラ導入先の燃料費削減、さらにはCO₂の排出削減による環境保全に貢献していきたいと考えています。



独自の技術で良い環境を次世代に残したい

昭

和44年に創業し、環境保全のために長年廃油のリサイクルを軸にあらゆる産業廃棄物のリサイクル事業に取り組んできた有限会社オイル・リサイクル。今回、補助金を活用して、特許を取得している独自の回転式燃焼技術を使った小型バイオマスボイラを開発しました。現在、製品化に向けた準備が進んでいます。

「未

来に良い環境を残したいのはもちろん

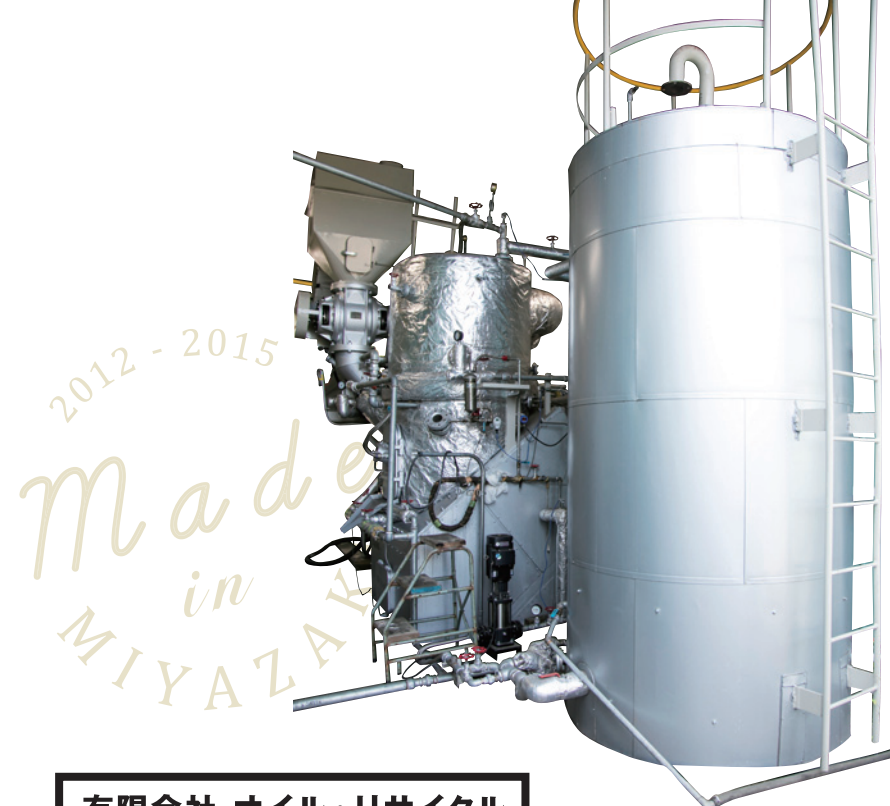
新たな次世代型の小型バイオマスボイラを開発しようと思いついたのは、東日本大震災がきっかけでした。「これからは、次世代に向けた再生可能なクリーンエネルギーへの取り組みが必要だと実感したんです」と黒木社長。

んですが、エネルギーとして再生利用可能な廃棄物等が無駄に焼却だけで終わっている現実があります。それらをエネルギーとしてより活用できる社会を作って行かなければなりません。焼却にお金を払うのではなく、安い燃料を使ってエネルギーを蓄えていくというのが、これから当社が目指す事業展開だと考えています。



そのために私どもの独自の技術を活かそうと考えたんです」

省スペースで設置できる小型バイオマスボイラで世界を変えていきます。



有限会社 オイル・リサイクル

独自の技術で開発した 小型バイオマスボイラで 廃材をエネルギーに

ペレット、チップ、廃材。これまでできなかった混合燃焼を可能にする小型バイオマスボイラによって、よりクリーンなリサイクル環境を実現しました。

ものづくり補助金活用 ここがポイント



小型バイオマスボイラの
実験プラントを製作
製品化に一步前進

燃焼実験で高出力の安定した燃焼が実証されました。これから製品化に向けて次の段階に取り組んでいます。

CASE 03

産業廃棄物処理業・特別管理産業廃棄物処理業

有限会社 オイル・リサイクル

〒889-0512 宮崎県延岡市新浜町2丁目8935番地70 TEL0982-37-1233

